国土の自然災害と防災施設

日本で自然災害が起こりやすいのはなぜか。国や県はどのような対策をしているか

災害	起こりやすいわけ（日本の自然条件）	国や県などの対策・防災施設
地震	日本はプレートの境目の近くにあり、地震が多い。	・建物や橋を地震に強くする（耐震化） ・緊急地震速報で知らせる
津波	海に囲まれ、海岸線が長い。海底の大きな地震で津波が起こる。	・防潮堤をつくる ・津波避難タワー・避難場所を整える
風水害	台風や梅雨の大雨が多い。山が多く川が急で、増水しやすい。	・堤防・砂防ダムをつくる ・ダムや遊水地で水をためる
火山	火山が多く、噴火で溶岩・火山灰・噴石などの被害が出る。	・火山を観測し、噴火警報を出す ・避難施設（シェルター）をつくる
雪害	冬の季節風で、日本海側に多くの雪が降る。	・雪崩を防ぐさく・消雪パイプ ・除雪車で道路の雪をのぞく

どの災害にも：ハザードマップをつくり、危険な場所や避難場所を知らせる。対策は国・県・市町村が分担して進める。